資料６
令和３年度第３回逗子市総合計画審議会
2021年（令和３年）12月22日

■総合計画・基幹計画・個別計画の進行管理において提出された次期計画策定に向けた意見等
（平成28年度～令和３年度実施分）

１．総合計画及び基幹計画・個別計画の策定において共通する意見等

柱-小柱	計画名	次期計画策定に向けた意見等	進行管理年度
		次期総合計画の策定を検討する時期が近付いている。これに生かすため、総合計画前期実施計画の目標に対する進捗状況については、実績だけではなく、当初の目標に対する現状の分析を今後提示されることを望む。	2020年度 （令和２年度）
1	福祉プラン	一律の評価方法だと評価できない部分ができてしまうので、計画ごとに評価方法が違ってもいいのではないか。	2018年度 （平成30年度）
1	福祉プラン	・評価について、数字だけでなく、質・中身が見えると良い。例えば、数字の増減については、どのような理由があるのかを具体的に示されると、懇話会で意見を出しやすく、情報の共有もできる。さらに、その意見を次期計画に反映させることができると良い。 ・計画を進行する段階では、新たなニーズの発生や状況変化に伴う方向性の転換を迫られることは多くある。そこから見えたことに対して、懇話会の意見をもとに新たな目標を設定していくことなども進行管理をするにあたって大切である。 ・懇話会は、「評価」が最大の課題としつつ、行政の評価と市民目線の評価をつなぐ場であると考える。市民目線の評価については、事業への市民の参加や協働関係の認識の広がりなどという視点とともに、達成されていないことに着目することが大切である。	2019年度 （令和元年度）
1-1	地域福祉計画・地域福祉活動計画	市職員はもとより、当計画、福祉プラン及び総合計画に携わる人は、積極的に地域へ出向き、地域の人との交流の中で感じたことを計画へ生かして欲しい。	2018年度 （平成30年度）
1-1	地域福祉計画・地域福祉活動計画	社会状況が大きく変わってきている中で、長期的な展望を描くことは難しく、３年から５年程度のスパンで考えていく必要がある。	2020年度 （令和２年度）
1-2	健康増進計画	次期計画策定の際には、目標の設定について再考の必要があると考える。	2016年度 （平成28年度）
2	共に学び、共に育つ、共育のまち推進プラン	・基幹計画を含め、各個別計画の冊子の体裁（本文以外に掲載されている資料等）がバラバラである。 掲載すべき内容（参考資料を含む）を検討し、体裁を整えることが必要である。 ・各事業の質に対する評価の必要性を指摘する意見が、各懇話会から多く出されている。質的評価（質的側面を含む目標設定）をどのように行うかを検討することが必要。 ・新しい総合計画のもとで、基幹計画及び個別計画の評価の対象となる事業が、抽出された事業に限られた。 ・このため、市がどのような学習機会を提供しているかその全体像や、市民のグループ・サークルの活動状況の全容が見えにくくなった。このことは、新しい企画を検討する際の障害となる恐れがある。	2016年度 （平成28年度）

柱-小柱	計画名	次期計画策定に向けた意見等	進行管理年度
2	共に学び、共に育つ、共育のまち推進プラン	〇現行の評価システムの課題と改善策 ・年度単位で完結しているため、毎年同じ意見が繰り返される。前年度の意見に関するフィードバック（対応・改善の報告等）の仕組みをつくる必要がある。 ・各懇話会や審議会での議論は、総合計画審議会へあげるだけでなく、実際の改善に向けた取り組みにつなげることが肝要であり、個別審議会や行政担当部局への報告や周知についても仕組み化する必要がある。 ・より良い目標設定のあり方について、今から次期計画に向けた検討を始めるべきである（目標数値の積算根拠の明確化、質的評価導入について）。 ・各個別計画の様式や記載項目について、少なくとも基幹計画内では統一すべきである。 ・評価をわかりやすくするための共通基準に工夫が必要である（受講者アンケートのフォーマット化など）。	2017年度 （平成29年度）
2	共に学び、共に育つ、共育のまち推進プラン	くり返し指摘されてきたことだが、目標設定自体の妥当性の検討、修正が必要である。特に、社会の変化が激しい中で、数年間の数値目標を設定し固定してしまうことが、本当に有効なのかは疑問である。 次期計画に向けて、それぞれの目標設定を現場（施設職員・市民など）が担うことはもちろんだが、何のための事業なのか、どのような施設であるべきか、という社会的役割・存在意義の再定義についても、現場で検討されていくような仕組みが必要なのではないか。評価項目が設定されると、それ以外を発想しにくくなるという課題がある。	2019年度 （令和元年度）
2-1	生涯学習活動推進プラン	廃止となった事業に対して、順調か順調でないか評価することに難しさを感じる。 今後もコロナ対応で、廃止や停止、目標を事実上変更する事業も出てくる可能性はあるので、「事業停止につき評価なし」の選択肢も選べるようにするなど検討して欲しい。	2020年度 （令和２年度）
2-2	文化振興基本計画	目標それ自体の妥当性を検討すべきである。	2017年度 （平成29年度） 2018年度 （平成30年度） 2019年度 （令和元年度）
2-2	文化振興基本計画	・目標設定や評価基準が曖昧であり、所管課の記載内容も主観的な内容に止まっているため、評価が難しい。 ・年度ごとの計画や目標設定は必須である。	2020年度 （令和２年度）
2-3	スポーツ推進計画	・総合計画、基幹計画の目標設定の仕方に問題がある。 ・設定された目標が適正か、一考が求められる。	2016年度 （平成28年度）
2-3	スポーツ推進計画	一部の目標が現実的な数値とかけ離れているため、適切な目標設定をしてほしい。	2017年度 （平成29年度）

柱-小柱	計画名	次期計画策定に向けた意見等	進行管理年度
2-3	スポーツ推進計画	・「スポーツ推進事業（逗子市スポーツの祭典）」や「池子の森自然公園の運動施設利用推進事業」等、目標が現状にそぐわないものがある。目標をむやみに変更することは安定感が無いが、全く変更できないことも柔軟性が無い。目標を達成できないことが確定的になった場合は目標を変更できる等、ある程度計画を見直しできる余地を残した方が良い。 ・数値に表れないアナログ的な部分を取り込んで評価につなげられる仕組みを検討すべき。	2018年度 （平成30年度）
2-3	スポーツ推進計画	実現困難な目標設定等は見直しの余地がある。	2020年度 （令和２年度）
2-4	学校教育総合プラン	時代の流れに応じて加除修正が必要	2016年度 （平成28年度） 2017年度 （平成29年度）
2-5	社会教育推進プラン	各事業の目標設定について、目的や手段に対応したものとなるよう検討すべきである。また、目標設定した数値は、達成できた段階で、新たに目標数値を見直すべきではないか。	2019年度 （令和元年度）
3-1	緑の基本計画	目標の表現として、「～となっている」ではなく「～とする」の方が良いのではないか。	2021年度 （令和３年度）
4	都市デザイン計画	次期計画の目標設定にあたっては、現実施計画の実績等を踏まえた上で、より質の向上が図られるような目標を設定されたい。	2019年度 （令和元年度）
4-1	住環境形成計画	今後の計画及び各事業の推進にあたっては、社会情勢等の変化に応じた適切な目標設定や取り組みの見直しが求められる。	2021年度 （令和３年度）
4-4	都市機能の整った快適なまち推進プラン	リーディング事業の2事業が、都市機能という観点では現時点での最重要事項ではないと思われるので、今後検討してもらいたい。	2021年度 （令和３年度）